

平成23年度第1回（第8期第1回）浦安市廃棄物減量等推進審議会（議事要旨）

1 開催日時 平成23年9月29日（木） 午前10時～午前12時

2 開催場所 消防庁舎 大会議室

3 出席者

（委員）

下田会長、畑山副会長、野原委員、吉本委員、高橋委員、木村委員、小林委員、内田委員、武田委員、大谷委員、市原委員、藤田委員、荒井委員、坪井委員

（事務局）

長峰部長、永井次長、本田クリーンセンター長、青木課長、須賀課長補佐、渋谷係長、石井副主査、細川主任主事

4 委嘱状交付等

（1）委嘱状の交付

（2）市長挨拶

（3）委員紹介及び事務局紹介

5 議 題

（1）会長及び副会長の選任について

（2）審議会の所掌事務等について

・ 審議会の進め方について

・ 審議会の内容等について

（3）今後のスケジュール等について

（4）浦安市の廃棄物の現状と課題について

6 議事の概要

（1）都市環境部長が座長となり、会長及び副会長を互選により選任。

（2）審議会の進め方についての審議及び審議内容等について事務局より説明。

（3）事務局より今後のスケジュール等について説明。

（4）事務局より浦安市の廃棄物の現状と課題について説明。

7 会議経過

委嘱状交付、市長挨拶、委員自己紹介、事務局紹介に続き、都市環境部長を座長として、委員の互選により会長に下田委員、副会長に畑山委員が就任することで承認された。会長・副会長の挨拶後、会長が議事を進行した。

事務局から「審議会の所掌事務等について」の説明を行い、会議を公開すること、議事録確認を議長に一任することで承認された。

続いて、事務局より、「今後のスケジュール等について」説明を行い、委員による質疑を行った。主な質疑内容は次のとおり。

- ・委員 委員の役割はどのようなものか。例えば3回目からの議題となる一般廃棄物処理基本計画は、審議会の中で作成していくものか。
- ・会長 審議会において、市民、事業者、処理業者、学識経験者の様々な立場の方々に議論しつつ、基本的な方向性を固め、行政側で根拠を明確にしながらまとめていく。
- ・事務局 一般廃棄物処理基本計画は、市が策定する計画で5年ごとに見直しが必要となる。計画策定に当たっては、市の考えを踏まえた案を提示することを予定している。また、専門的な分野についてはコンサルタントへの委託も予定している。計画案を基に審議をいただき、廃棄物処理業者の視点、また、市民代表の生活に則した意見等を基本計画に反映していきたいと考えている。
- ・委員 基本計画の5年ごとの改正、計画見直しでは、震災での液状化や多量のがれき等の一過性のごみについても、今度、策定する基本計画では反映させるのか、それとも日常生活のごみの減量や分別を考えて行くものか。
- ・事務局 審議会での審議は、長期的な計画で10年から15年後を見据えた計画の他、ごみ量の予測などを審議いただくことを予定している。

事務局より、「浦安市の廃棄物の現状と課題について」説明を行い、委員による質疑を行った。主な質疑内容は次のとおり。

- ・委員 資源化率とは、どういう定義か。

- ・事務局 資源化率は、全てのごみ排出量に対する資源物の割合で、内容はびん・缶・ペットボトル、アルミ・鉄と乾電池・蛍光灯の有害ごみ、エコセメント化された焼却灰、拠点回収と集団資源回収された紙類・繊維類の資源物の合計で割り出した数値となっている。参考として、平成 22 年度は、総ごみ排出量が 66,020 トンに対し、資源物の合計が 14,409 トンになり、21.8%の資源化率となる。
- ・委員 資源化率は 30%に届いていないが、びん・缶・牛乳パックの回収がまだ十分ではなく、一生懸命行えば 30%に達するものなのか、他の視点からでないか 30%に達しないのか、その辺はどうか。
- ・事務局 前回の基本計画の中で資源化率 30%という目標値があるが、資源化を増やすためにさらにリサイクル施策を検討すべきか、一方、リサイクルは最後の手段として、ごみ量を減らすべきであり、資源化率だけ上がれば良いのかという考えもある。審議の中でごみ量とリサイクル率の関係についても議論いただきたい。なお、現状のリサイクルが十分であるとは考えていない。
- ・事務局 市の資源化は、リユースではなく殆どが加工している。集まった資源にコストをかけて、資源化量が多くなるのが良いものか。また、市が資源化として算出しているものは、集団資源回収や拠点回収、委託収集、持ち込みなどで、それ以外にも市民が直接、資源化している物も相当あると考えられるがそれらの数値は加味されていない。
- ・委員 市が資源を回収して燃やして燃料化する方法と洗ってリサイクルする費用とバランスを考えるとどちらが良いか悩ましいところである。
- ・委員 エコセメント推進事業で灰をセメント化するとは具体的にどのようなことか。

- ・事務局 焼却灰にセメントや石灰を混ぜて歩道のインターロッキングブロックのようなコンクリート二次製品等に製品化する事業である。

- ・委員 ペットボトルや空きびんの再資源化は、粉砕し洗って、新たな資源にリサイクルするとのことであるが、ビールびんなどは粉砕せずに洗っている。ペットボトルも、そんなに汚れているとは思わないし、洗って使えば、粉砕の手間もかからず、費用も掛からないと思うが粉砕に何か理由があるか。洗って使えるものはそうした方が良くと思う。

- ・事務局 ペットボトルはもう一度、洗って殺菌するリターナブルびんのような工程に耐えられないので、粉砕して別なものにせざるを得ない。
特にコーラやウーロン茶など薄手なものは、殺菌ルートに乗せると耐えられないと考えられる。

- ・委員 ごみを出さないためにはものを買わなければ済むが、それだと日本経済は良くなれないし、リサイクルに重点を置くしかないと思っているが、取り組みの中で、やれることは徹底してやっていると感じがしており、後は一人ひとりの気持ち次第という感じがする。

- ・事務局 基本計画の作成にあたっては、様々に委員のご意見をいただければと考えている。事業者として今回、ダイエー、ワイズマートに委員として参加いただいているが、ごみを減量するため、ばら売りやトレー回収など取り組まれており、消費者側もパックになっていた方が良くと思うのをやめれば、ラップ類も出なくなる。また、今回は家電リサイクルのハイパーサイクルや消費者である委員の参加、また、経済学が専門の会長にも入っていただいているため、より良い議論をいただければと思う。

- ・会長 便利さ、快適さを追求した結果、ごみが出てくる訳だが、私が子供の頃、野菜は新聞紙で包まれていた。委員には忌憚のないご意見をお願いしたい。

- ・委員 事務局からの話でリサイクルにも費用が掛かることが分かった。
ペットボトルはカバーを取っている人、そのまま捨てている人、洗っている人など色々いるが、それを徹底するだけでも少しはリサイクルへの貢献やごみが減らせると感じた。
- ・委員 基本計画の4つの目標の内、最終処分量を50%削減するというのは、ごみの量を減らすのとは別の考えで、クリーンセンター側で削減という考えなのか。エコセメント事業もその一つだと思うが、基本計画の中でどのように位置づけられるものか。
- ・事務局 今考えられるのは、エコセメント化事業の量を増やせば、50%に近づいて行くが費用が掛かる。一番はごみを減らすことで処分量自体を減らすことであり、減らないとなれば最終処分量を減らすには、現在考えられるのは、エコセメント化ということになる。
- ・会長 焼却して残る灰のエコセメント化だけでは限界があるので、そのものを減らすことに目を向ける必要がある。節電があったが、幸い一人ひとりの努力が実り、大停電の事態は避けられた。ごみ問題と同様にできるかという議論はあると思うが、いくらか街も暗くなっているが、慣れてみると今までが明る過ぎたのではないかと思えてくる。ごみも出し過ぎたのではないかという発想も生まれてくるのではないか。
- ・委員 事業系ごみ量で削減率は高いが相対的には県と比較しても多いようであるがどのような状況か説明願いたい。
- ・事務局 本市で営業されている事業者で、人口に比してごみ量が多い事業者があるためと推測される。
- ・委員 私は市の許可業者であるが、市川市でも許可をもらい事業系ごみを集めている。浦安市は比較的大きな事業所を持っており、ホテルにしても市川市のホテルは2箇所くらいしかない。それを比べても全然違うし、

それだけ人も集まっている。面積比でみたら事業系ごみの比率が浦安市は高い。日々業務を行っている立場から見ても、県内では事業所が少ない市も入っているので、浦安市の市域性からは市川市・船橋市のデータと見比べてみた方が良いのではないかと。

- ・事務局 そのようなデータを次回に提示する。
- ・委員 ごみ量排出約6万トンのうち、クリーンセンターで処分しているのはどのぐらいか。
- ・事務局 平成22年度の総ごみ量が約6万トンでその内、可燃ごみが約5万トンなので、約1万トンは焼却処理は行っていない。
- ・委員 約5万トン燃やして焼却灰はどれぐらい出るのか。
- ・事務局 焼却灰と残渣で約1割、5千トンくらいである。
- ・委員 不法投棄された特定家電は、全部市内で捨てられているか。主にどこに捨てられているのか。
- ・事務局 捨てられる場所は限られていて、クリーンセンターの周りや集合住宅の集積所などが多い。
- ・副会長 最終処分場には、燃え残った焼却灰の全てが運ばれるということか。
- ・事務局 エコセメント化事業または、茨城県の最終処分場に運ばれる。

続いて事務局より、委員との連絡方法について確認を行い、終了となった。